

## ま え が き

本校の研究発表機関たる本誌も、号をかさねて、第8号を迎えることになった。

従来のものは大部分、毎年本校が主催した高校教育研究協議会の成果を集録したものであったが、本年度はいろいろの事情で、研究協議会は中止した。しかし、付属学校としての本校の使命にかんがみ、本誌だけは続刊することにし、各教官の個人研究をいちおうまとめて発表することにした。

したがって、本号の諸研究は、これまでのように、研究協議会の席上で他校の諸先生の御批判・御検討を仰ぐことが出来なかったために、きわめて未熟なものであり、さらにまた、各教科を一貫する研究主題を設けずに、各教官の自由にゆだねることにしたために、研究の内容上いちじるしく統一と連関をかいたきらいがなくはない。こうした未熟な、断片的な小論を世に問うことに、果していかほどの客観的意義が認められるか、私ども自身にも全く自信がないが、ともすれば教育技術的研究が低調化しようとしている高校教育界の一般的状況におし流されまいとする、私どものささやかや努力の表明としての存在理由ぐらひはもちうるかもしれない。

私どもは本誌を、これまでの研究協議会の報告書的なものから、本校の研究紀要的なものにきり換えることによって、本誌の内容を充実しようと考えている。本号はその過渡期で、いずれの性格のものともつかぬあいまいなものではあるが、本校の研究途上の一つの一里塚として高校教育界におくりたいと思う。

校長 神力 甚一郎